

戦争は最大の人権侵害



新聞に、東京都武蔵野市の松田春廣さん（100歳）が、徴兵検査の日に味わった「屈辱」を80年以上経った今でも覚えている、という記事が載りました。

脳性まひで手足が不自由だったその方は家族に大切に育てられていましたが、昭和19（1944）年、父に背負われて徴兵検査へ。裸で長時間調べられ、「兵役に適さない」と判定されました。その経験を、後年「とても恥ずかしく、悔しかった」と語っています。

なぜわざわざ「不合格」の辱めを受けなければならなかったのか

当時は「お国の役に立つか」で人の価値が測られ、「人権」という考えはほとんど存在しませんでした。

ある講演でこんな言葉がありました。『人権は、「家族」や「健康」などと同じく、失ってみて初めて、その大切さを実感できるものです』

（出典：「朝日新聞（2026年3月22日）」、ならびに「西条市人権ホットニュース」）



今、世界はどうでしょう？ ニュースをつければ、どこかで紛争が起き、どこかで人が傷つき、どこかで子どもたちが泣いています。

あなたにできることがあります

今日、誰かの立場に立って考え

誰かの痛みを自分のこととして感じてみる



その小さな想像の積み重ねが、世界をつなぎやがて世界を変える力になるのです。



宇陀市人権啓発活動推進本部



2026. 8

※このビラへのご意見・ご感想は

☎ 0745-82-2147または jinken@city.uda.lg.jp

毎月11日は「人権を確かめあう日」です